



奈良女子大学同窓会佐保会

滋賀支部だより

2020年2月21日

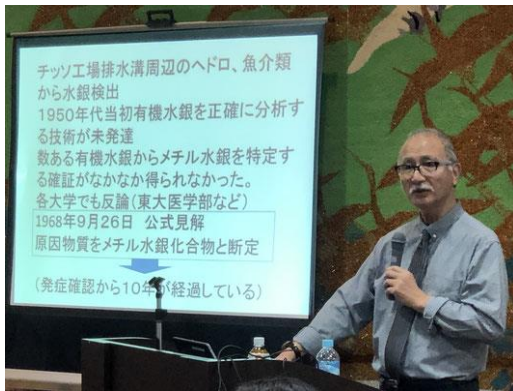
佐保会滋賀支部

支部会員 413名

今回の支部だよりには、おうみ佐保塾の開催報告、《こんにちは☆支部会員さん》などの記事載せています。佐保会報（200号記念号）、ならじよ Today とあわせてお読みください。

第21・22回おうみ佐保塾

2019年10月4日（金）、11月1日（金）



令和元年度は、図らずも戦後から平成までの歩みを問い直すような内容となりました。講師は元びわ湖放送報道部長の池田重信先生（現帝塚山学院大講師）で、初回はテレビ報道草創期から現代までの流れを、2回目は水俣病という重要な事件を中心に据えて現代日本の問題を炙り出す試みをお話いただきました。

どの世界でも同様でしょうが、テレビ報道の世界も、機材や技術の未熟さとの格闘の歴史がありました。初期の照明は熱を持ち、スタジオは暑くてたまらなかったこと、VTRが登場するまでは、今では当たり前となっている編集作業ができず、初めから最後まで続けて撮るしかなかったこと。地上デジタル化という革新的な進歩も、それに伴う設備投資が特に小さな地方局には大変な負担だったとのこと。一般人には見えない部分を知り得た初回でした。

2回目は厳しい問いかけをいただく内容となりました。水俣病が発生してから司法上の解決をみるまでの驚くほど長い年月、表面的な報道だけを受けとって「他県のこと、済んだこと」と脇に置いてこなかったか。被害にあって苦しんでいる人を、逆に加害者であるかのように忌避し、二重に苦しめるという行為が、水俣病とは違う事件に於いても繰り返されていることを真摯に考えてきたか。救いは地元メディアが丹念な報道をしたことです。受講して下さった方の中に九州ご出身の方がおられ、その証言をして下さったことも大きな収穫となりました。考えさせられることが多々あり、もっと時間が欲しかったのお声を多数いただきました。



滋賀支部設立75周年記念事業としてスタートした「おうみ佐保塾」。地域への貢献事業の一環として続けてまいりました。今後も沢山の皆様にとって興味深いテーマを選ぶ事が望まれます。令和2年の近江と言えば、やはり明智光秀だろうか、現在鋭意計画・準備中です。ご参加をお待ちしています。

(S60 文教 高原 早苗)

《こんにちは☆支部会員さん》 歌う建築士 田井中恭子さん (S47 家住)

9月7日の午後、田井中恭子さん（S47住居ひひのソプラノソロリサイタルにおじゃました。会場は近江八幡駅に程近い近江金田教会。かのヴォーリズの事務所の設計で、戦後まもなく建てられた歴史ある教会だ。スパニッシュスタイルの明るいクリーム色の外観の礼拝堂へ入ると、天井を設けていない造りのせいか、外からの印象より広く感じられた。クリスチャンでない私でも何かしら厳かな気持ちになる。それにしても、なぜ会場にこの教会を選ばれたのだろうか。まずはそこから尋ねてみた。曰く、以前に建築士会の会議で何度かここを訪れていた田井中さん、その時から「音響とか良さそう。かつ地理的に集客にいい、これはリサイタルにピッタリだ」と狙いを定めていたそうで、「開催一年前に会場借用願および趣意書を牧師さんに提出し教会理事会で了解をいただきました」とのこと。「ちょっと気になる空間に出会うと有効活用を考えるのが大好き、これ住居の原点です」とも。うーん、住居学科だ。



リサイタルが始まった。第一部はイタリア歌曲、プログラムを見ると知っている曲は「Caro mio ben」だけ。ついていけるだろうかと不安になる。が、杞憂だった。実はソプラノと聞いて甲高い声を想像していたのだが、田井中さんのそれは違った。まろやかというか豊かというか、なんとも優しいのだ。聞いている者を包み込み温かい気持ちにさせてくれる。私のような音楽の素養のない人間でも、夢心地で聞き入ってしまった。田井中さんは高校時代、合唱部顧問・林浅子先生と出会った。『運命の出会い』といっても過言ではないだろう。合唱の指導者としてだけでなく人格的にも尊敬する林先生に、歌うことの素晴らしさを教えられたという。「人生で躓いたとき、音楽は必ずあなたたちを助けてくれるから」今も心に残る恩師の言葉だ。「先生の言葉通り、何度も歌に救われました」田井中さんはしみじみと語る。奈良女でも音楽部で歌い続けた田井中さん、就職、結婚で何年か歌わない時期があったが、子育ての手が離れたころから、お母さんコーラス「彦根みずすまし」に参加。全国大会、ヘルシンキ演奏旅行と活躍するも、一級建築士としてのお仕事が忙しくなり休団。だが、さらに三人の親御さんの介護が重なり心身ともに疲れた時、先に紹介した恩師の言葉「音楽は必ずあなたたちを助けてくれる」が耳に蘇った。歌に救いを求め、練習が日曜の午後という彦根混声合唱団に入団、また歌い始めた。以来、ご夫君の理解と協力もあり、仕事と歌をうまく両立させて充実した人生を送っておられる。第二部が始まった。日本歌曲。「赤とんぼ」に始まる山田耕筰作曲の4曲と平井康三郎作曲の2曲。今度は6曲全部知っている。第一部同様、いやそれ以上に夢心地、眠ってしまうのではないかと心配になるほどにリラックスして聴かせて頂いた。今回の選曲は、このリサイタルのために一昨年からレッスン頂いた真野美佐子先生によるもの。「常に基本に忠実に技術の原点にかえて過度な思い入れは許されない」という田井中さん、歌に対する真摯な姿勢がうかがえる。真野先生との偶然ともいえる出会いも、歌の神様がそんな田井中さんのために用意してくださったものかもしれない。偶然といえば真野先生のご夫君で日本画家の真野康洗氏が偶々今回の会場である金田教会をスケッチされていたこともそうだ。田井中さんの信条である「思想しつつ、

生活しつつ、歌いつつ」という言葉とともにこのリサイタルのパンフレットの表紙を飾った。

今回のリサイタルは古希を記念してのものと伺っている。声楽のレッスンは体力維持に効果的なのでずっと続けていきたいという田井中さん。「まだやり始めたばかりで、よくこんな段階で発表会ができたものだと、猛省しています、古希が早く来過ぎました」謙遜されながら「次回はもう少し他人様にお聴かせできる段階まで到達してからしたいです」控えめに抱負を語られた。

田井中さん、素敵なりサイタルを有難うございました！

最後に会場にいる全員で歌った「小さい秋みつけた」。来たときはまだまだ残暑が厳しかった駅への道を歩いていると、微かな風が……。小さい秋見つけた！
(S60 理物 松本 匡代)



共催佐保塾・史跡めぐり

令和元年の今年は足利義満建立の臨済宗相国寺派大本山・相国寺を訪ねました。10月17日(木)朝、地下鉄を今出川で降り地上に出ると、「共催佐保塾」の案内板を手にした役員の方が笑顔で迎えてくださいました。

ちょうど秋の特別拝観期間で、法堂(はつとう)方丈、開山堂を案内していただきました。法堂は仏法を大衆に説くところで、天井には狩野光信によって描かれた蟠龍図があたかも法の雨を降らせるが如く広がっていました。鳴き龍として有名ですが、わたしのかしわ手には応じてくれませんでした。

ご法話を賜りました御年86歳の有馬頼底官長は久留米藩主のご子孫とのこと。合掌してわたし達の前に進み出られますと、思わず一同ひれ伏し・・・ユーモアたっぷりの縁起話に制限時間が忽ち到来。

この日、遠くは岐阜、愛知支部からも参加され、年代を超えての久しぶりの歓談の時はあっという間。わたしも思いがけぬ同期の方々との再会がありました。史跡めぐりということでしょうか多くの文学部卒業生が参加されていました。みなさまも機会があればぜひ。京都支部役員様に感謝！ほんまおおきに。

(S42 家住 高田 正子)



相国寺庫裏

創立110周年

奈良女子大学は、昨年創立110周年を迎え5月には多彩な行事が開催されました。佐保会も4年後には110周年を迎えます。多くの卒業生の方たちが紡いでこられた時間の中に自分も身を置いているのだと感じました。変化していく母校をもう少し見ていきたいと思ひます。



お知らせ

支部総会

日時：6月14日（日）10：30～14：30

場所：ホテルニューオウミ（近江八幡駅徒歩数分）

講演：森治美さん（S51 文教）

本部行事への参加のおすすめ

- ・雛人形展：4月1日（水）～7日（火）10時30分～16時
—北海道・東北地方の人形たち—
 - ・七夕コンサート：7月4日（土）13：30～15：30
「アラベスクの響き」出演 しんきちさん（アラブ音楽トリオ）
- *佐保会本部では、コンサート（七夕・クリスマス）、年2回の講演会を佐保会館において開催します。4、5月に講演会開催の予定です。詳しい日程は、佐保会ホームページをご覧ください。

他支部行事にもご参加ください

大阪、京都、奈良の各支部も多彩な行事を開催しておられます。ホームページをご覧の上、ご参加ください。

事務局より

- ・皆様の作品をお寄せください。ホームページ・支部だよりに掲載させていただきます。
- ・会員の皆様の受賞の情報などご存知でしたらお知らせください。広くご紹介したいと思います。投稿・情報のご提供は支部長までお願いします。
- ・2019年度の会費未納の方には払込取扱票を同封しています。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は口座間振替をされると料金が安くなります。ATMの利用によりさらに安くなりますのでお勧めです。既に払い込み済みの場合はご容赦ください。
- ・住所・電話番号などを変更された方は支部長までご連絡ください。
- ・滋賀支部ではホームページを開設しています。「佐保会滋賀支部」でご検索ください。
- ・支部の行事をお手伝いしてくださる方はいらっしゃいませんか。支部長までご連絡ください。
- ・支部長への連絡先は封筒に記載してあります。ホームページからもご連絡いただけます。

《編集後記》

新型コロナウイルスの国内第一号の患者が奈良で発生しました。直後の2月1日、奈良まで所用があり出かけましたが、土曜日にも関わらず、近鉄奈良駅のあたりも観光客の姿はまばらでした。観光に携わっておられる方たちは大変だろうと思います。終息が見えてくるまで、自身の体力を維持して切り抜きたいものです。皆さまもお体大切に。総会でお目にかかりましょう。



（S50 理化 浅野純子）